

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 2月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901431		
法人名	有限会社 ポプラ		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	旭川市春光4条9丁目6番12号 (電話) 0166-54-6946		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月22日	評価確定日	平成22年5月4日

【情報提供票より】 (平成22年 1月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 10月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	17人, 非常勤 1人, 常勤換算 10.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000円		光熱水費	19,000円
			暖房費(10~5月)	7,000円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300円	

(4) 利用者の概要 (1月27日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7歳	最低	67歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	並木通りクリニック、かむい歯科、中島病院他
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道40号線から僅かに入った、住宅街にあるホームです。平成15年の開設で、市内でも数少なかった早期の設立ですが、管理者の豊富な経験から使用し易い設備や工夫が施されています。収納設備がある居室、車椅子でも対応が容易なトイレや、広い更衣室のある浴室、また、家族との面談室、収納庫や職員の休憩室など、利用者、家族、職員などが、それぞれ居心地が良い雰囲気づくりが施され、家庭的な暮らしが継続されています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前年からの改善課題は4項目の取り組みが期待されていましたが、災害対策は夜間想定避難訓練など改善されています。しかし、残る3項目に関しては継続した取り組みとなっております。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の作成に当たっては、職員全員の参加によるサービスの振り返りなど、気づきや反省が集約されて作成されますが、今回の自己評価では十分とはいえません。評価の意義と理解に関して、管理者を始め職員が真摯な気持ちで対応することを期待します。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は概ね2ヵ月毎に開催され、家族、地域住民の方々などの出席を得て進められています。時々地域包括支援センター職員の出席があるようですが、正式なメンバーとしての参加を求めます。また、評価で改善課題となった項目への取り組み状況、進捗などのモニター役を担っていただくなど、会議の内容充実を図り、ホーム運営、またサービスの質の向上に寄与する会議となるよう期待します。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問頻度が高く、職員は何でも話していただける雰囲気作りに配慮し、家族の意見や要望、苦情などを聞きだす努力が続けられています。しかし意見箱の設置など、家族の内在する意見や要望を聞きだす方策が十分ではなく、それらの対応を期待します。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者の介護度が年々増しているなか、少しでも地域にとけ込もうとする管理者や職員の努力が感じられます。町内会の行事への参加、ホーム行事への参加の声掛けなど、ホームを取り巻く環境と一体となった交流が行なわれています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしく暮らし続けると言う基本方針に培われた「人間への深い愛と理解」「社会の福祉に対する奉仕」の大きな理念が作り上げられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員に対し運営理念を機会あるごとに話し、理解を得ると共に、実践に向けた努力と職員と一体となったサービスの向上に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事で、祭りの夜店、よさこい踊りの見物、公園などの清掃活動など、利用者の体調を勘案しながら参加しています。また、ホームの「あじさい祭り」には、近所に声掛けをして参加していただくなど、利用者と共に地域との交流を図るよう努めています。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について理解はしていますが、自己評価の作成に当たり、全ての職員に対して、自ら日頃のサービスを振り返るなどの作業が十分ではありません。また、昨年の自己評価や外部評価で得られた課題に対する取り組みは、十分ではありません。	○	職員が行なう日々のサービスを自ら振り返り、改善の糸口となるべき評価に対して、運営者及び管理者、職員の全てが理解し、改善への真摯な取り組みが望まれます。また、改善に向けた取り組みの状況を運営推進会議に報告し、進捗状況のモニター役を担っていただくなど、課題の改善が円滑に進み、ホームの質の改善に反映するよう期待します。

旭川市 グループホーム あじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は概ね2ヵ月毎に開催されています。家族、地域の方々、また、ホーム行事の収穫祭を兼ねた運営推進会議には、地域包括支援センターの職員も出席、討議され、サービスの向上に活かされています。これからは、評価で明らかになった改善への取り組みを公表するなど、モニター役を担っていただくよう期待します。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護に関する相談及び生活保護の更新など、利用者の日常生活に関わる相談など、市の担当者と協働しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時を利用して、利用者の状況などを報告しています。職員は、より信頼関係を深めるため、家族との会話時間を多くとるように努め、また3ヵ月毎に発行される「あじさい便り」は利用者の写真が満載で家族の好評をいただいています。毎月の金銭管理の報告や、職員の異動なども今後掲載し、家族に知らせよう検討することとしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問頻度が比較的高く、訪問の際に運営に関する意見、要望、苦情などを伺うようにしています。また、年2回開催の家族会でも意見の交換はありますが、意見箱の設置がないなど、管理者や職員に伝える機会及びホームの運営に反映させる方策が十分ではありません。	○	家族の意見、要望、更には苦情を表せる外部の第三者機関があると同じように、管理者は家族の内在する意見や要望を真摯に受け止め、ホーム全体の質の向上に資する取り組みが必要です。無記名による「意見箱」の利用も家族にとって大切な手段となり、設置を含めた取り組みを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、退職なども含め少なく推移しています。退職などが生じた場合は、新人職員が、利用者と深く関わり馴染みの関係ができるように配慮して、利用者のダメージを防ぐ取り組みが行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、外部研修の情報などを職員に知らせながら、参加を促しています。職員は休暇を利用して参加するなど、スキルアップに努めていますが、ホームとして職員の段階に応じた育成、また、内部研修や外部研修受講などが十分ではありません。	○	ホームとして必要な課題をテーマとした内部研修の実施、また、職員の経験やスキルに合わせた計画的な外部研修の機会を確保するなど、職員を育てながら、サービスの質の向上に役立てる取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が主体となって作られたグループホーム研究会で、同業者のネットワークにより交流が続けられています。管理者の訪問などが実施されており、これからは職員を含めた相互訪問や勉強会も実現されようとしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員の決まりや都合をできるだけ排除しながら、利用者が、自由に自分のペースを保持できるよう配慮し、支援が行なわれています。また、雰囲気馴染めるよう家族とも相談し工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者のできる作業などを一緒に行なうことで意思疎通を図りながら、得意な分野での知恵を教わるなど、お互いが支えあう関係が築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を、コミュニケーションだけでなく、動作や表情からも把握して支援しています。利用者のこれまでの暮らしの情報を参考に小さなシグナルも逃さないように気配りしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回開催されるカンファレンスで、利用者の日頃の状況が報告され、職員全体の意見交換が行なわれて、利用者にとって一番良い介護計画が立案されています。計画は家族の訪問時、または郵送されて意見を聞きながら、計画作成担当者により完成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヵ月の間隔で介護計画の見直しを図っています。また、利用者の状況の変化による介護計画の見直しは、随時行なわれています。前回外部評価の日常のケース記録と介護計画に示された項目との連動性は、全般の様式の改善には至っていませんが、特記事項の欄を利用して計画と連動させるなど、改善の試みが進められています。	○	両ユニットの計画作成担当者による日常の介護記録が、計画に連動した記載の方法について模索が続いています。既に介護計画書の特記欄を利用した記載の試みも始まっており、様式の改善までの取り組みと成果が今後期待されます。また、計画に対する家族の意見等の反映は状況から困難が予想されますが、より一層の取り組みを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の状況を勘案して、病院への付き添い、送迎、買物、墓参り、以前の住まい周辺のドライブなど、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援が続いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医への通院は、利用者、家族の希望を尊重して支援しています。また、協力医による健康管理及び24時間対応など、適切な医療が受けられるよう支援が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針が作成されており、利用者及び家族への説明と同意書が取り交わされています。また、その後の状況に応じた医師、家族の話し合いも綿密に行なわれています。今後は、全ての利用者、家族に対してもできるだけ早い段階に話し合うなど、ホームと一体となった支援を行なうこととしています。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者との会話や対応について、より一層の配慮をして、利用者の誇りやプライバシーを傷つけない対応に努めています。前回課題の面会簿も連記式の名簿から単票のカードに改める予定となっています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースを排除して利用者のペースを大切にするなど、利用者中心の暮らしの支援が行なわれています。		

旭川市 グループホーム あじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助を要する利用者も、職員の声掛けにより一生懸命な食事風景を見ることができます。料理の下拵え、食器洗いなど、作業が可能な利用者は進んで参加しています。職員は介助や見守りに専念しており、一緒に食事はできていませんが、楽しい食事の雰囲気をより一層高める心配りをしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む利用者も中にはいますが、できるだけ週に2回入浴ができるよう、職員の支援が継続されています。車椅子を使用する利用者が多い状況ですが、更衣スペースが広く、職員が支援しやすい工夫がされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や習慣を把握して、役割や楽しみごとへの参加を促していますが、最近では介護度が高く、利用者が参加しづらい状況です。それでもボランティアと共に過ごす時間や、外食、ドライブ、家族も参加の遠足や焼肉パーティー、クリスマスパーティー、誕生日会など、楽しみごとの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の好天時には、町内めぐりの散歩が日常的に続けられています。また、花畑や野菜を植えての菜園作業も閉じこもりを防止する機会として、職員の支援が継続的に行なわれています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を理解しており、玄関、居室など施錠は一切行なわれていません。夜間のみ防犯上、玄関の施錠が行なわれ、家族にも周知されています。		

旭川市 グループホーム あじさい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年からの課題であった夜間想定避難訓練が実施されています。また災害時の地域住民の方々への協力要請も度々行なわれ、スプリンクラーの設置も予定されるなど、災害へのリスク軽減への取り組みが着々と行なわれています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者と職員が、栄養バランスを考慮した献立を作成しています。水分の摂取も毎日記録され、適正な摂取量の確保が図られています。利用者が好む味噌汁など毎日の設定を避け、昼食には麺類やパン食、雑炊などを取り入れ、変化のある食事提供が行なわれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は、大きな窓からは陽光が入り、窓辺の庭のブドウやあじさいの花を眺めることができ、季節感が味わえる環境となっています。車椅子対応のトイレや洗面所も使いやすく設置されています。冬季間は、乾燥対策を心がけるなど、快適な環境づくりに努めています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に設置されている収納スペースは、衣類などの整理がしやすく、ベッドなどの設置も居室が広々と使用できています。使い慣れた家具、椅子やテーブル、仏壇などが整然と並び、安心して過ごしやすい空間となっています。		

※ は、重点項目。